



女性医師支援センター便り

「ガラスの天井」(glass ceiling)

グラスシーリング (glass ceiling) とはガラスの天井の意で女性の能力開発を妨げ、管理職への昇進や意思決定の場への登用を阻害している見えない障壁のことである。男女共同参画2000年プランでも謳われているが、グラスシーリングの解消を図ることは職場における男女平等参画を実現するうえで重大な課題となっている。

わが国のGEM (ジェンダー・エンパワーメント指数 2009年) は109カ国中57位である。女性管理職の比率は、他の先進国と比べてもフィリピン57.8%, アメリカ42.5%, ドイツ・オーストリア37.3%, イギリス34.5%に対し、日本は10.1% (2005年ILO統計) に過ぎない。「指導的地位」に占める女性医師の割合は、18.1% (2008年), 研究者13.0%, 本省課長室長以上の国家公務員は2.2% (2009年) である。国は「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性の占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待」(第2次男女共同参画基本計画), 特に医師・研究者・公務員に重点を置いた女性の参画加速プログラムを設定した。

1999年4月施行の男女雇用機会均等法の改正法で募集・採用, 配置・昇進, 教育訓練の差別について, 努力義務が“禁止”になり, ポジティブアクション (積極的改善措置) に対して国の援助が可能になった。また2007年4月施行の改正法では間接差別禁止 (女性の深夜労働禁止の解禁など) の規定が入った。一方, 現在上場企業の女性管理職の約半数が未婚者であることを考えると「ワーク・ライフ・バランス」を実効あるものとしていくことも大きな課題である。

諸外国における固定的性別役割分担意識の調査では、「夫は外で働き, 妻は家庭を守るべき」という考え方について, 日本の男性の約半数が賛成派, 女性でも約4割が賛成派である。儒教思想がわが国より強いといわれている韓国では, 男性賛成派は2割, 女性は1割余である。女性の自立を妨げている要因はなんだろうか。

今後, ジェンダーを乗り越え女性が能力を発揮しやすい社会の実現を目指して, 出産・育児後の復職・再就職支援, 保育・子育て施策の充実はもちろんのこと, 医療界も含めた企業風土の変革が日本の経済・社会の活性化に繋がっていくであろう。M字カーブの解消により131万人~445万人の女性労働力人口増加の可能性があるという。女性の社会進出が進んでいる国ほど, 合計特殊出生率も高い傾向にある。

宮城県女性医師支援センター委員
宮城県女医会会長
鈴木カツ子